

第 11 回質量分析シンポジウム

日時: 2010年9月1日(水) 15:30~18:00

場所: 大阪大学大学院理学研究科
H棟7階大セミナー室 (H701)

<<http://www.sci.osaka-u.ac.jp/location/maps-jp-b.html>>

15:30~16:40 (講演50分+質疑20分)

講師: 土橋 均 先生

(大阪医科大学法医学教室)

片木 宗弘 先生

(大阪府警・科学捜査研究所)

題目: 覚せい剤など法規制薬物の現状と分析

16:50~18:00 (講演50分+質疑20分)

講師: 和田 芳直 先生

(大阪府立母子保健総合医療センター研究所)

題目: 医療現場での質量分析の応用

18:00~

ビール, ソフトドリンクとつまみだけの簡単な懇親会を企画しています.
講演会場前の7階コミュニケーションスペースで行う予定です.
(懇親会代として500円程度を集めさせていただきます)

覚せい剤など法規制薬物の現状と分析

大阪医科大学 法医学教室

土橋 均

大阪府警・科学捜査研究所

片木 宗弘

講演要旨

容疑者所持の白色粉末、容疑者の尿について、法規制薬物含有の有無を現場で速やかに検知することは、薬物事犯の捜査において極めて重要である。

現場用の装置に求められることは、高い信頼性、簡単な操作、即時の検査結果等であるが、警察では容疑者緊急逮捕を目的として使用するため、信頼性は特に重視される。

本講演は、警察署において警察官が検査を行う「尿中覚せい剤現場用 GC」を中心に、覚せい剤などの現状と分析について解説する。

医療現場での質量分析の応用

大阪府立母子保健総合医療センター研究所

和田 芳直

講演要旨

質量分析は製薬や生命科学研究で普及している一方、医療機器承認など障害はあるにしても、医療現場ルーチンとして診断等に使われているケースはほとんど皆無である。新生児マススクリーニングは複数の疾患を一斉分析することで費用対効果も稼げる点で、唯一の例外であるが、その背景にはこれら「稀少疾患」診断に採算を考えることへの社会的躊躇もある。小児科領域には稀少疾患が多く、患者は「原因不明の発達遅延」として置き去りにされている。そのような現状に対して、演者らが6年間にわたって続けている質量分析を使った先天性糖鎖合成異常症の診断支援活動について、その方法や世界の状況について話題提供する。